



しらみね

白峰地区

(石川県白山市)

- 計 画 期 間 平成19年度～平成21年度
- 面 積 20.4ha
- 交付対象事業費 976百万円
- 市人口 112,830人

ポイント 白峰地区全体を「むらの駅」と位置付け、独自資源活用と住民参画を基調とした山村集落におけるにぎわい再生モデル

地区概要 道路・公園整備などの基幹事業と、温泉整備やにぎわい創出などの提案事業を効果的に実施することにより、来訪客の増加を図り、現代版湯治場、伝統的建造物群保存地区に向けての地域づくりの動きを実現する。

目 標 「温泉と伝統的街並みを活かした白峰らしさの演出」をテーマに、生活環境の向上に伴う交流環境の拡充

指 標 地区の特有資源である温泉、伝統的街並み及びコミュニティ活動を三つの柱とし、それぞれの取り組みを進めながら、相乗効果を狙った目標（来訪者数）の実現を目指している。

観光施設入込者数	257,000人 (H17)	→	308,000人 (H21)
宿泊者数	37,000人 (H17)	→	40,000人 (H21)
イベント参加者数	8,000人 (H17)	→	12,000人 (H21)

事業内容 基幹事業（518百万円） → 道路（4路線、延長1,601m）、公園（1カ所 3,600㎡）、ポケットパーク（1カ所、50㎡）、サイン（6基）、駐車場（1カ所 650㎡）、文化と歴史の小径（2路線、延長45m）、地域交流センター（1カ所、510㎡）
 提案事業（458百万円） → 温泉総湯（1カ所、612㎡）、特産品販売供給施設（1カ所、243㎡）、散策マップ（白峰地区そぞろ歩き）、交流イベント（雪だるままつり、伝統的街並みライトアップ、温泉まつり、食文化伝承イベント）、街なかアート（そぞろ歩きサイン）、事後評価



完了地区 石川県

地区の現況と課題

白山市の南部、標高約500mに位置する白峰地区は国内有数の豪雪地帯であるが、昭和49年の手取川ダム建設以来、過疎化が進展している。ダム再建対策として、スキー場や温泉施設に加えて、近年は白山恐竜パーク白峰や白山砂防科学館などを整備するとともに、四季を通じた特色あるイベントも実施してきたが、来訪客数の減少傾向は止まらず、基幹産業である観光産業が停滞している。そのため、知名度が高い白峰温泉を活用した環境整備、伝統的街並みを活用した集落景観の醸成及び地域住民参加型ソフト事業の推進などによって、来訪者数の増加と観光産業の振興を図る。



▲ 白峰地区の代表的街並み・山岸家付近
(山岸家：江戸時代白山麓18か村取次元)

提案事業の特徴

白峰温泉総湯の整備

温泉は地域のシンボルであり、また、白峰型住宅の普及を目指し、景観に配慮した温泉施設を整備することによって、白峰地区の現代版湯治場としてのイメージアップを図る。

特産品販売供給施設の整備

白峰地区の特産品である栃餅、ぼた餅、堅豆腐、そば、おろしうどんなどを提供し、来訪者のにぎわい拠点とする。

にぎわい創出事業の実施

代表的イベントである雪だるままつりを発展させるとともに、新たなイベント展開や、そぞろ歩きを促すマップの作成、方言の活用などによって、地区の魅力を向上させる。



▲ まちづくり事業の本丸・白峰温泉総湯

計画策定プロセス

白峰地区中心市街地再整備計画検討委員会

白峰地区の住民、各種団体からなる検討委員会を設置し、整備計画の検討を慎重に行うとともに、地域住民対象の先進地視察、学習会、報告説明会を主体的に実施してきた。

白峰地区中心市街地再整備計画庁内プロジェクトチーム

市役所内に本庁地域振興課、観光企画課、観光振興課、白峰支所全課からなる庁内プロジェクトチームを設置し、検討委員会での内容を具体化するとともに、地域主体のまちづくりに対して密接な連携と効果的な支援を行ってきた。

大学との連携

地域の知の拠点である大学（金沢工業大学、金沢大学）と連携し、官民学一体となって、普及啓発活動、調査研究活動、イベント実践活動などのまちづくり活動を行ってきた。

まちづくり団体との連携

観光ガイドを実践するNPO法人加賀白山ようござった、雪だるままつりや古民家再生として開設した雪だるまカフェを運営する雪だるま倶楽部及び地元観光協会と連携を行ってきた。



▲ 白峰地区の象徴・雪だるままつり



▲ 古民家再生のモデル・雪だるまカフェ